品川区の東京マリオットホテルに招かれ、翌日の共励会に向け、購買意欲を盛り上げた。

JA全農ミートフーズ㈱の中村哲也取締役営業本部長は17回目を迎えた共励会について、関係者にこれまでの感謝を述べたあと、和牛出荷頭数の減少、和牛素牛の高騰、豚のPED発生など業界を取り巻く厳しい環境について説明。

名誉賞を受賞した湯浅ファームの湯浅代表（左）と、購買した小川畜産食品の藤平副部長

で、全農ではこれまで米国、EU、香港、シンガポールなどに和牛を輸出してきたが、昨年はこれに加えてメキシコ、ベトナム、フィリピンなどにも輸出を拡大した。今後も輸出を通じてさらに和牛のおいしさを訴えていきたい」とあいさつ。

さらに来賓として東京都中央卸売市場食肉市場の小松達也場長、東京食肉市場㈱の小川一夫社長

総会で阿部氏を再任

首都圏MP輸出推進協

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会（阿部昌史代表理事）は6月25日、第3回定期総会を都内で開催し平成26年度事業報告や27年度事業計画などを承認した。また役員選任で阿部代表理事、原田、桜井の両副代表理事、阿部、森島、宮の3理事、植井会計監査を再任した。また新たに小堀正展牧場の小堀正展氏とエムケイ開発㈱の河上貴一代表取締役を理事に加えた。

総会で阿部代表理事は「輸出推進で日本産食肉ブランドの認知度向上とブランド確立を目的に協議会を設立して今期で4期目となる。27年度も国の支援事業である輸出拡大サポート事業に参画し、さらに日本畜産物輸出促進協議会においても、より有効な輸出支援事業が継続的に実施されるよう提案や要請活動を実施するとともに、これらネットワークを活用しながら、当会員の知恵と経験を生かし、海外のユーザーに直接販売するような仕組みづくりと、プロモーションを通じて日本産ブランドの価値を高めていきたい」とあいさつ。

総会では東京都港区新橋のエムケイ開発㈱東京営業事業部の新規入会が承認された。27年度事業計画は①産地間連携などによる海外での販路開拓（日本食材の理解と調理技術に関する事例紹介セミナーinタイ、日本食や和食へのメニュー化に関するセミナーinタイ、日本食や和食へのメニュー化に関する事例紹介inベトナム）②輸出環境整備を図る取り組み（輸出拡大のためHACCPシステムによる工程管理をベースに、SQFシステムによる信頼性と食品安全、品質向上に取り組む）など。

日本産食肉ブランドの認知向上とブランド確立を進めていく

内臓市況

豚停滞感続く 牛鍋物需要も

【東京】 ◇豚内臓 生鮮、冷凍ともに品薄は変わらない。とくに第2週は全国各地で休市などもあったため、とくに頭数が少なかった。出荷は増えず、停滞感は月が変わっても払しょくされない。もちあい。

◇牛内臓 国産物はと畜頭数の減少により玉が少ない状況が継続している。気象庁の7～9月予

部分肉市況

牛期待できず 豚連休で強い

【東京】 ◇牛部分肉 国内生鮮物 枝肉高に反し消費は鈍く、量販店も「売り場を維持する量」だけの手当てに終始し、梅雨明けまで期待できない。荷余りはないが、和牛ウデ、モモは弱い。バ

く可能性が指摘されている。日によって冷え込むこともあり、焼き肉よりも鍋ということもありそうだ。もちあい。

ロースは焼き材用に動いている。

【日本食肉流通センター】 ◇豚部分肉（チルド） 関東では梅雨空が続き、末端需要は鈍いものの、頭数不足から枝肉価格は上昇傾向。連動して部分肉相場も全般的に強もちあい。今週末には3連休を控えており、堅調な展開が続くだろう。

食鳥市況

国産は先高か 輸入在庫薄い

【東京】 ◇国産物肉は610円を割り込む場面もあったが、610～615円の推移となった。同ムネ正肉は340円での堅調な展開を続けた。

梅雨明けを控えて、20日の週からは一段上げの様相を強めており、第4週は強もちあいか。

◇輸入物 米国産はバーデューからの入荷が半減し、タイソンからの入荷がストップしている現状のため市中在庫は払底状態にある。またブラジル産は、グリラーが品薄で商いは閑散。モモ正肉も需給はタイトに推移し

食鳥正肉相場

農林水産省統計情報部発表

月・日	6.29	30	7.1	2	3	4
モモ高値	762	764	休	802	802	762
安値	530	557		565	559	550
ムネ高値	491	492		491	491	493
安値	291	292		291	291	293